

『弊社からのペットの口腔内ケアへご提案』

ペットの口腔内ケアと人間の口腔内ケアについて、考えて見ました。

人間の口腔内ケアについては、テレビなどの宣伝も含め、言われていることは、

「いわゆる歯磨きで、大事なのは『歯を磨く』のではなく、『口の中の細菌を取り除く』ことである。（歯垢＝細菌のかたまり）

歯磨きの本来の目的は、食後に歯に付いた食べカスが、歯垢（プラーク）にならないように「プラークをコントロール」することです。

海外では、「プラークコントロール」という言葉を使うが、日本では、「歯磨きをする」という言葉で、口腔内ケアが表現されています。

「歯磨き」＝「歯を歯ブラシで磨く」と勘違いしている人が大半であるのが実情です。歯磨きだけでは、食べカスによる汚れは、60%しか落ちず、「歯と歯の間」、「歯と歯肉の境目」に溜まる食べカスは、8時間で歯垢になり、それを除去することが、必要と認識されるようになってきました。それらを、歯磨きの他に「歯間ブラシ」や「デンタルフロス」で、歯磨きでは取れない食べカス（もしくは歯垢）を除去することが、推奨され、その他の方法では「水歯磨き」「口内洗浄液」などの方法も次第に広まりつつあります。

日本人の口腔内ケアの考え方も現代は、欧米のように「プラークコントロール」というふうに認識が変わってきています。

次に、ペットの口腔内ケアに関して考えてみますと人間の口腔内ケアの考え方から遅れているのが現状と言わざるを得ません。本来の口腔内ケアの目的である、『口の中の細菌を取り除く』方法は、歯磨きが一番との考え方が未だにあります。それでは、不十分であるという認識が足りないと思われます。

「歯垢の除去」＝「歯垢の溜まる、歯間や歯周ポケット」＝「歯ブラシで歯を磨く」にはならず、本来なら、人間同様の「歯間ブラシ」「デンタルフロス」などが必要ですが、ペット用には無く、歯磨きシートなどは、歯磨き同様、歯の表面の汚れを取るのみで、歯間や歯周ポケットのケア用商品は、断然に少ないのが現状です。

又、飼い主様の意識においても、ペットの口腔内の気になることは、「歯の表面の汚れ」「歯磨きでは届かない奥歯の歯磨き」「歯石の付着」「口臭」が大半で、「歯間や歯周ポケットに溜まっている歯垢（70%が細菌）の除去」＝人間で言う「プラークコントロール」の意識は、ほとんどの飼い主様にはないのが現状ではないでしょうか。

弊社においては、「歯垢を洗浄して除去」することを目的に、「ナチュラル・クリン for オーラル」（動物用口腔内洗浄液）を開発し、6年前から動物病院様にお取り扱いをいただいております。成分のナノ化した大豆油脂肪酸の洗浄作用で、歯垢を洗浄し、除去することで、口臭の劇的な改善、洗浄後の歯石の再付着の防止、そして、歯周病の改善（特に猫・薬剤と併用による使用が多い）などの顕著な効果を実感いただいております。

以上の理由から、歯磨き（歯の表面の洗浄）＋ ナチュラル・クリン for オーラル（歯間、歯周ポケットに溜まった歯垢の洗浄）で、ペットの最先端の口腔内ケアを実践していただくことをご提案申し上げます。

勿論、「歯磨きは無理」というペットにも、ナチュラル・クリン for オーラルだけの使用においても効果を実感いただけます。

2017/10/11

井直商事株式会社